

試験名

AML201 付随研究 **終了**

急性骨髄性白血病におけるVLA-4発現の予後因子としての有用性の検討

AML201終了後、厚生労働省がん研究助成金「成人難治性白血病の分子生物学的特徴に基づく治療法に関する研究」（直江班）共同研究として実施中

研究事務局：新津 洋司郎、松永 卓也（札幌医科大学内科学第4講座）

概要・目的

白血病細胞のVLA-4強発現が、AMLの予後不良因子となり得るか否かを検討する。
初診時に行ったVLA-4発現強度による層別化が、エンドポイントである完全寛解率と生存率の差を予測する上で有用であるか否かを確認する。

対象

- ・ AML201試験に登録されている症例
- ・ M3を除く未治療の成人AML
- ・ 15歳以上65歳未満
- ・ RAEB, RAEB-T等のMDSの既往を有する症例や非定型性白血病例は除く
- ・ 本随伴研究への参加について文書による同意が得られている
- ・ 十分な心・肺・肝・腎機能を有すること

目標症例数

120 例